

7 イネ内穎褐変病に対するオキシリニック酸粉剤の散布時期別効果

ねらいと成果

近年、イネ内穎褐変病の発生が増え、特に品質が重視される山田錦で防除対策の確立が望まれている。有効薬剤についてはオキシリニック酸が有効であることを明らかにした（ひょうごの農林水産技術 No.122参照）。ただ、本病の感染時期は開花期に限られることから薬剤の散布時期を明らかにする必要がある。そこで出穂期を中心に散布時期と防除効果について検討した。

防除効果は出穂期の8日前から11日後までみられるが、効果が高かったのは出穂の2日前から5日後であった。

内容

1 方法

2002年6月13日に移植した山田錦を供試した。1区100㎡で1反復とし出穂期を中心に、8月23日（-8日）、同29日（-2日）、9月2日（+2日）、同5日（+5日）、同11日（+11日）にオキシリニック酸粉剤4kg/10aをミゼットダスターで草冠部を中心に散布した。出穂は8月31日であった。調査は9月27日に1区当たり5株×2カ所の10株の全穂について行った。発病穂数に応じて、発病程度0：発病穂数0，同Ⅰ：発病穂数1～5，同Ⅱ：発病穂数6～15，同Ⅲ：発病穂数16～に区分した。発病程度から次式によって株毎の発病度を求めその平均値を区の発病度として防除効果を判定した。なお、施肥は基肥4kgN、穂肥2kgN/10a（出穂20日前）を施用した。

$$\text{発病度} = (1 \times \text{Ⅰの穂数} + 2 \times \text{Ⅱの穂数} + 3 \times \text{Ⅲの穂数}) \times 100 / (3 \times \text{調査穂数})$$

2 結果及び考察

調査の結果を図に示す。いずれの散布時期でも防除効果は認められたが、60以上の防除価が得られたのは出穂の2日前～5日後であった。このことから高い防除効果を得るためには出穂期を中心とした時期に散布する必要がある。

出穂期前後は、穂いもちを対象とした基幹防除時期でもあることから、オキシリニック酸を含む剤を散布することで防除は可能である。しかし、防除価はそれほど高くはないために目に見えた効果にはならない場合もある。

他方、斑点米カメムシ類の防除のためには乳熟期～糊熟期の防除が必要で、穂いもちや内穎褐変病の防除適期よりも遅い。このため、防除対象とする病害虫によって防除時期を決める必要がある。

今後の方針

内穎褐変病は開花期の湿度・温度との関係が深いとされるが、降雨との関係は必ずしも深くはない。このことから開花期の夜露との関係を中心に発生生態について検討する。また本病の被害は、発病穂の登熟不良と着色米の発生に現れるとされているが、群落としての被害程度については不明である。作物群落としての被害評価について検討する。

長田 靖之（農業技セ・病害虫防除部）

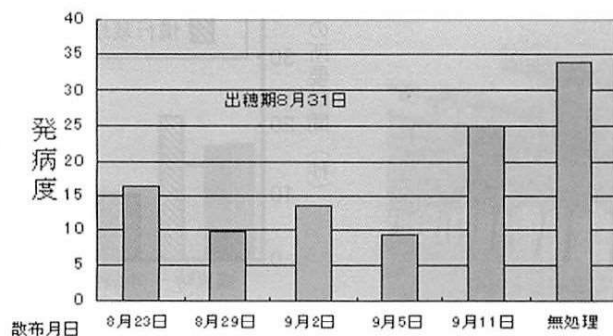


図 オキシリニック酸粉剤の時期別効果(2002)